



## りょうしん：らくえんの とびら

### しんあい なる しんこうしゃ の みなさま！

りょうしん とは、わたしたち が おもいやり を もって せつする のに もっとも ふさわしい あいて です。わたしたち が このよ に いる のも、りょうしん あって こその こと です。とき には め に なみだ を うかべ、また とき には くちびる に いのり を のせ、さいしん の ちゅうい を はらい、おしみなく ろうりよく を そそいで くれた おかげ で、いま の わたしたち が あります。

### しんあい なる ムスリム の みなさま！

りょうしん に よく する こと は、わたしたち の すうこう な しゅうきょう が さだめて いる こと でも あります。イスラーム は、りょうしん の けんり を まもり、その こうふく を ほしよう する よう すずめて います。とくに、かれら が としおいて からは そば に いるよう、あい と やさしさ を もって かれら の ひつよう を みたして やる こと が、おやこうこう の ぎむ で ある と つたえられて います。むし したり、きずつけたり する こと は きんじられて います。この てん に かんして、ぜん のう の アッラー (スプハーナワタアラー) は、ホトバ の はじめ に あんしょう した しょうく の なか で つぎ の よう に つげて おられます。「**あなた の しゅ は あなたがた に、この おかた の ほか は なにも物 にも つかえない よう、また りょうしん には よく する よう さだめている。その どちらか が、あるいは どちらもが あなた の ところ で おいる に いたった なら、その どちら にも あらあらしい ことば を はいて[、いらだち を ぶつけて]は ならない。かれら に いいかえしたり せず、ていねい な ことば を かける よう に しなさい。そして かれら に、じひ から くる つつましさ の つばさ を たれなさい。そして いいなさい。『しゅ よ。おさなかつた わたし を かれら が そだてあげて くれた ように、ふたりに じひ が あります ように』。**<sup>1</sup>

### しんあい なる ムスリム の みなさま！

りょうしん の けんり を まもり ましょう。かれら の こころ を つかむ どりよく を しまししょう。かれら が、わたしたち の ために いのって くれる という しゅくふく に ふさわしく なりましょ。りょうしん の よろこび を える こと は、げんせ における さいだいの こうふく であり、らいせ における きゅうさい の きかい である と となえましょ。りょうしん に たいする しんせつ、おもいやり、やさしい こえかけ、えがお、そんけい、それ に かんよう を おしむ こと の ない よう に しまししょう。なくなつた りょうしん の ために、つね に いのり と アル=ファーティハ を となえましょ。おこない の きろく が つね に ぜんこう で うまる ような、よい こどもたち の ひとり で あれる よう どりよく しまししょう。

ほんじつ の ホトバ を、わたしたち の よげんしゃ の つぎ の ハディース を もって おわります。「**ちち とは らくえん への まんなか の とびら (すなわち、もっとも すぐれた とびら) である。それを いかすも いかさぬも あなたがた したい である**」。<sup>2</sup>

<sup>1</sup> Isra, 17/23-24.

<sup>2</sup> Tirmidhi, Birr, 3.